

テーマ 1. 赤ちゃんが生まれて心配なことがあったら、、、

1 か月健診、育児相談で多い質問について

当院では、当院で出生したお子さんの1か月健診を毎週火曜日午後に行っております。1か月健診は、疾患の有無や体重の増加を確認するとともに、養育上の問題点を相談、解決する場です。気になることは何でも相談していただいて、解決していただければと考えています。以下は、多くの方が同じように悩まれる、1か月健診で聞かれることの多い質問です。不安に思っていたことの解消になれば幸いです。そのほかにも心配なことがあれば、なんでもお気軽にご相談ください。

●うなる

赤ちゃんが顔を真っ赤にしてうなることがあります。苦しそうにしている、便が出せないのではないかと心配される方もいらっしゃいますが、うなる行為には病的な意義はなく、成長とともに見られなくなってきますので、特に心配はいりません。

●便の回数

この時期の赤ちゃんの便の回数は個人差が大きく、飲むたびに出る子から2-3日に1回の子もいます。便の回数の問題のみで、何かの異常であることはありません。便の回数が少なく、体重が増えない、嘔吐が頻回、おなかが張っているなどの他の症状を伴っている場合は、病的な便秘の場合がありますので、レントゲン検査などで評価をします。

●乳児湿疹

生後2-3か月くらいまでの赤ちゃんは、お母さんのホルモンの影響を受けて、皮膚の脂の分泌が多いと言われています。この時期の湿疹の原因のほとんどは、これによるもので、乳児湿疹と言います。治療の中心はスキンケアで、泡立てたボディーソープでよく脂分を落とし、きれいにシャワーで洗い流すようにしてあげましょう。

●鼻閉

赤ちゃんの鼻のつくりは未熟で、特にかぜを引いたりしていなくても、鼻が詰まったようにズコズコと音がすることがしばしばあります。よく哺乳ができて眠れていれば問題はなく、体格が大きくなるにつれて改善されます。

●赤あざ

皮膚の一部赤く見えるものはいわゆる“赤あざ”と呼ばれるもので、医学的には血管腫といいます。目の周りやおでこ、首の後ろなどに良くみられる、平面で隆起のないものは単純性血管腫といい、美容的な問題のみであることが多く、ほとんどのものは治療の必要性のないものです。しかし、乳児血管腫と呼ばれる一部の血管腫に関しては、近年、内服薬での治療ができるようになり、当院でも治療を行っています。気になる方はご相談ください。

●おへそ

おへそが膨らんで見える、いわゆる“でべそ”であることがあります。医学的には臍ヘルニアといい、これまでは、ほとんどは自然治癒するために、経過観察することが多かったのですが、一部は残ってしまったり、皮膚の余りが目立つことがあるため、当院では圧迫療法という治療を行っています。気になる方はご相談ください。